



ごんきや「終活カウンセラー」遠藤清子の

生き活きと 終活教室

終活カウンセラー 遠藤清子

ごんきやに入社して22年。お客様の想いをかたちにすることにこだわり仕事に従事。
大震災を経て、皆様には後悔してほしくないと終活への想いを深め、セミナーにも心を注いでいる。

最終回 テーマ

決して死は終わりではなく
生き活きと生きた人生を伝えたい

大切です。

ところで、老後のことを家族と話し
たりしますか。

遠藤 息子には「お金を貯めておけば施設に入れてあげるよ」と言われています(笑)。娘には友だち目線で話すので、仕事の失敗を話すと「どんまい」と言われたり。

武藤 そういう普段からの会話が大切。エンディングノートがなくても、会話や親の姿勢から、親の希望はこうだとわかっていきますからね。

私は母が亡くなった時、母を見ていて「死んだらこうなるんだから、

終活の本来の意義である、今を

「生き活きと生きる」ヒントを探るシリーズ。その締めくくりにふさわしく、終活カウンセラー協会の代表理事・武藤頼胡さんを迎えました。

遠藤 終活カウンセラーを始めたのはいつですか。

武藤(以下敬称略) 2010年です。当時は、終活カウンセラーでインターネット検索しても出てきませんでした。それから7年、今ではセミナー告知への反響も大きく、特に若

い世代の関心の高まりを感じます。

遠藤 私が終活カウンセラーを学ばせてもらったのは3年前。そこからごんきやの終活セミナーも本格的に始まりました。初めにお子さんが参加して、次に親御さんがきたりするケースもあり、家族で大切なことを話し合うきっかけとなっているのが感じられています。

わたし自身のことを言うとう、職業として活かすと同時に、終活は自分のためでもあるという意識が高まっています。自分の人生、命を大切に

し、やりたい事はやろうと、ポジティブになりました。

武藤 遠藤さんのような考え方をする人が増えるとうれしいですね。わたしは大学で教えていて、3年生にエンディングノートを配り、人生の棚卸しをさせています。その前と後では「何のために働くの?」と同じ質問に対し、最初は漠然としていたのが1年後には「自分の人生のために働きます」と返ってくるのです。年輩の方でも若い人でも、将来にあることを知り、考えることは

「しっかり」と言われているように思いました。それが終活カウンセラーへの道に繋がりました。

遠藤 人は亡くなっても終わりでない。日々、お葬式に携わって感じさせていたでいます。それだけに、その人らしいお葬式のお手伝いをしたいと思っています。

普段も、「ちょっと、聞きたいんだけど」と入って来られる方もいらつしやいます。これからも、葬祭や終

活について気軽に聞いていただければと思っています。



一般社団法人 終活カウンセラー協会代表理事 武藤頼胡さん

終活カウンセラーの生みの親として、全国を巡ってのセミナー展開や大学での客員教授を通し、『今をよりよく自分らしく生きる終活』に情熱を傾けている



—1815年創業—
葬祭・仏壇・仏具・神具・生花・花環・墓石

株式会社 **ごんきや**

塩釜本社：〒985-0043 宮城県塩釜市柚野田町24-2
仙台本社：〒980-0022 宮城県仙台市青葉区五橋2-8-14

☎ 0120-365-554

● ごんきやグループ 家族葬邸宅 ■ du:e® 仙台荒井 ●

内覧相談会 開催しています

日時：12/4(月)、10(日)、16(土)、21(木) 10:00~13:00

上記時間内であればいつでもご覧いただけます

住所 仙台市若林区荒井7丁目38番2 お申込み/お問合せ 022-794-7554